

地域(ブロック内)研修活動の活性化  
のために  
～実践交流による「課題解決の共有化」  
を図る～

喜茂別町立喜茂別小学校 青木 博見

1. はじめに

後志支部では管内19ヶ町村を3つのブロックに分けて、それぞれのブロック毎にテーマを設定し、研修を進めています。

第1ブロックは北後志地区の5町村(積丹町・古平町・余市町・仁木町・赤井川村)で構成され、学校づくりと学校事務～「学校づくり」における学校事務のあり方～をテーマに研修活動を進めています。

第2ブロックは岩宇・南後志地区の6町村(共和町・泊村・神恵内村・岩内町・寿都町・島牧村)で構成され、学校づくりと学校事務～保護者負担の軽減に向けて～をテーマに研修活動を進めています。

第3ブロックは羊蹄山麓・南後志地区の8町村(黒松内町・蘭越町・ニセコ町・真狩村・留寿都村・喜茂別町・京極町・倶知安町)で構成され、横のつながりを通じた学校づくり～課題解決ー実践へのプロセス表(仮称)作成の試み～をテーマに研修活動を進めています。(※各ブロックのテーマは2013年度におけるものです。)

第3ブロック(山麓・南後志地区)では、2010(平成22)年度から「財政財務活動を改めて探求しながら、少しずつでも「学校づくり」にも活かしていこうと研究を進めてきました。2011年度は「財政財務活動」をより深く理解するため、予算要望活動に絞って研修しましたが、他町村の状況や取り組み、活動する上で心がけていることやコツなどを話し合うことで活動へのヒントや刺激を得られたとともに、予算要求活動は日常的な財政財務活動が基になっており、とても重要であることを再認識しました。

ここでは、2012年度、2013年度の第3ブロックにおける研修活動について提示し、論議していただく中で、これからの研修内容や今後の課題解決について、考えて行きたいと思います。

2. 研究の経過

【2012年度】

前年度の予算要望活動に焦点を当てた研修を通して、日常的な財政財務活動が基になっていて、とても重要であることを改めて認識したものの、実践交流のみで深い議論にならなかった、他町村の実践を採り入れて改善につなげていく意識が足りなかったという反省が出されていた。そのため、研修会等で得られた他校での実践などをできるだけ取り入れていくことを確認しました。

12月の研修会では、財政財務活動全般の検証と今後の展望について話し合いました。これまで研修してきた財政財務活動を見つめ直し、目的意識やその意図(ねらい)、実践する上で方法や手段などを共通理解(共有化)することで、自らの活動の(校内から多方向への)広がりを意識したり、特殊な実践から普遍的な活動内容へと移行させたりと、活動全般を深化・発展させられるのではないかと考え、日常のとりくみや課題を振り返りながら意見集約することにしました(後掲資料「研修課題意見集約シート」)。

「研修課題 意見集約シート」によせられた主な回答 \*設問(4)を中心に

<校内再配分>

- 教員から再配分の基準額を聞かれた。赴任当初は前年度実績額に沿って配分したが、今年度は担当者に要望額を聞き取ってから、配分額を決めた。年度末の様子を見て再度考える予定。
- 年度当初、担当者に再配分額を周知しているがしょっちゅう執行済み額を聞かれる。担当者が予算差し引きしながら執行してほしいと考えているのか、どう管理したらよいか悩んでいる。

#### ＜公費と私費＞

必要となった武道の道着の購入について、毎回授業に参加する特別支援学級担任の分をどのようにかんがえるか悩んでいる。男女合同、生徒数、指導内容の関係上、公費購入して複数で着まわしてもらおうと思っているが、私費の方がよいのか？

#### ＜生徒アンケート＞

新校舎になって2年目の学校では、予算要望時期に生徒に「あるとよい備品」「直してほしい箇所」のアンケートをとったところ、新築直後とは違う「使用してみたの意見」も含めて多数の回答があった。学校の見解や対応をまとめ、12月に生徒に配布した。

#### ＜施設設備関係＞

後任者にも分かるように、施設の修繕記録などを、まとめてみたい。

どのシートにも、財政財務活動に対する真摯な考え方や重点課題などがびっしりと書き込まれており各自が何に着目して、どんな目標に向かっているのかが見えてきました。また、構想していることを何とか実現したい気持ちが伝わってくる回答がいくつもありました。これらの活動にどう取り組んでいくかが課題になってくると思われます。

#### ☆研修の成果と課題

##### ＜成果＞ \*抜粋

- ・ 身近な日常的な財政財務活動をテーマにしたため、交流を通して現在の自校の状況を振り返ることができたとともに、取り組みそうな実践のヒントや、疑問に感じていることへの答えなどを得て、自校ですぐに反映させることができました。
- ・ 積極的に職員に声かけをして校内での協力体制を強化したり、町村内でまめに情報交換をするなど身近な環境での連携を深めるなど「横」を意識して

交流できました。

#### ＜課題＞

- ・ 実践例などをどう自校で活かしていくのかが課題で、「自校での悩み」→「研修会でのヒント」→「ヒントを基に自校で横のつながりを意識しながらの実践・成果」という視点での検証が必要となってくるでしょう。また一つでも「共通の課題」として、全員でその実践をおこない検証していくとしても、何を「共通の課題」とするのが難しいところです。
- ・ 事務職員だけが財政財務活動を行うのではなく、職員への周知を徹底して学校全体で取り組む必要性を理解してもらうなど、職員の意識の醸成も必要と思われます。校内で教職員に財政や教育環境にどう関心を持ってもらうか、私費負担や安易に教師が自費で安い教材を購入するなど、公私の区別の意識付けをどうするか今後交流していければと思います。（財政事情によって、意見反映に影響を与えて機運が萎える可能性もありますが）

#### 【2013年度】

2012年度は、財政財務活動をそれぞれの学校でどう展開したのかを、同じ様式に整理し、検討を行い、共通する課題や独自課題に対して、どのように実践で課題解決にあたるかを交流する形で研修をすすめてきました。

そこで2013年度は、それぞれの学校の課題を解決する（財政財務活動の内容以外も含む）ために、どう実践の中に「考え」や「具体的行動等」を位置づけ、課題解決のプロセスを「普遍化」するためにはどのような表現で行ったら理解しやすいか、等々をイメージして、研修をすすめてきました。

課題解決のプロセス（経過）の「共有化」について、議論し、具体的内容について明らかにしていくことで、誰もが同じスタンス（観点）で課題解決に向けて実践するための方策の策定に取りかか

りやすい、そのような、事例を整理し、共有化できればと考えました。

そこでブロック研修会では、別紙の「プロセス表」のひな型を提示し、各自の実践例などを書きいれてもらうことにしました。プロセス表の原案には、項目や矢印自体にさまざまな意見が交わされましたが、最低限の設定をして取り組むことにしました。

<プロセス表作成にあたって>

- ① テーマは定めない。財政財務、情報の領域にこだわらず、△△向け事務だよりや〇〇点検・・・何でもOK!
- ② 上部の『学校・地域』の項目は自由に変更してよい。
- ③ 左側の矢印は、表現を変えてもよいし、順番を変更してもよいこと。
- ④ 記載内容については、現在校も含め以前の学校の内容でもよいこと。

下記の項目は、「プロセス表」を用いることを考えた過程で「何を求めどう表現するのか」を項目的に並べたものです。

- ・ 客観的に認識できる方法や表現
- ・ 自らの活動や実践の振り返り、再構築につながる
- ・ 財政財務活動における表現を考える
- ・ 認識の共有化
- ・ ブロック内での取り組みの広がりを目指すために

この項目に沿って研修会で出された主な意見、感想などを整理し、以下にまとめてみました。

\* プロセス表のよかった点・改善を要する点

#### 【一番上の「学校・地域」】

- ・ 項目にとらわれて（限定される感じで）難しかった。
- ・ ある程度、「保護者・地域」を含めていないとダメなのか?!でもそのよ

うな実践はやっていない。

- ・ 改めて考えると「地域」があってもよい。参考になるので。又は「学校（地域）」でもよい。地域に向けての事務だより等の実践もあるので。

#### 【左側の矢印】

- ・ 何を書いたらよいのか?矢印に合う言葉を探すのが難しい。
- ・ 図式化する上で邪魔になるが、ヒントになるものが全くないと書けないので、「これをもとに整理してみよう!」という意味合いのものに感じた。
- ・ 矢印内の言葉が漢字ばかりでとっつきにくい。「現状はどうか?」と親しみやすい表現の方がよいのでは。
- ・ シンプルな矢印の方がよい。(記号として)
- ・ 矢印があって書きやすかった。
- ・ 基本の矢印は崩さない方が書きやすかった。
- ・ 時系列で書いた方が表現しやすかった。まず経緯に沿って羅列して、全体像を作った後で、何をねらいにしているかを追加していったから。

#### 【『方法・手段』『目的・手段』】

- ・ 自分が整理する上で、「こんなことを実現したいからこんな動きをしました」を表現できるのでよかった。

<図に表すことについて>

～ 図式化で客観的になるのか?

- ・ 書くまでは腰が重かった。
- ・ どこから書き始めても、最後はループになる。(振り出しに戻る)
- ・ 実際に行ってきたことを羅列する(文字だけの)方が書きやすいが、読む(見る)側としては図の方が分かりやすい。
- ・ 経験の浅い人にとっては、他人のプロセス表を参考にフレームにはめ込んで書けるので、フレーム(枠組み)があるのはありがたかった。

＜全体的に大まかなことについて＞

～ 内容は何でもよい、今の勤務校の活動に限定しないなど

- ・ 財政財務、予算、備品の事例が多かった。
- ・ テーマを決めなくても、自然に実務より財政財務の実践が中心になるので大まかでよい。
- ・ 「この実践（地域向け事務便り等）について」と限定されると、やっていない人が困る。
- ・ 本人の承諾が必要だが、特定の人にテーマを指定して書いてもらうのも、サンプルを増やす点でよいと思う。  
例) 子ども向けアンケートを実践している人に、そのアンケートにまつわる活動や想いをプロセス表にあてはめて書いてもらう。

☆研修の成果と課題

- ・ 自らの活動や実践の振り返り、再構築につながる。
- ・ プロセス表を活用することで反省材料の一助になる。運営計画をもとにして活用したい。
- ・ 文字だけで表現するよりも、自分が行ってきたことを振り返る(整理する)という点ではよかったし、わかりやすかった。
- ・ 図にしながら反省してみることで、次年度への課題（あまり取り組まなかった等）がでてきたり、新たな課題を見出せた。
- ・ 課題や認識の共有化が図られた。Aさんの実践した手法は、自分の学校ではA'ぐらいで真似できるかと思った。（いいとこ取りで）
- ・ ブロック内での取り組みの広がりを目指すために、サンプルがたくさん集まれば、交流するだけでなく、今後を考える材料になると思う。
- ・ Aさんはこの場面であんな活動をしていた、などを一般化できれば、ノウハウを身につけられるのではないかな？

### 3. まとめ

第3ブロックでは近年、新採用と他管・道立学校からの異動者が多かったという事情もあって、誰もが関わっている財政財務活動を3年にわたって研修してきました。予算要望や子どもアンケートなどの実践交流はできた一方で、深い議論にならなかつたり、他校での実践を採り入れて改善につながらなかったという反省もありました。また、財政財務活動に対する真摯な考え方や重点課題が書き込まれた「研修課題意見集約シート」を交流するうちに、他校・他町村での取り組みや活動する上での意識・考え（何に着目して、どんな目標に向かっているか等）を共通理解し、他職種の職員・保護者・地域とどう関わり、どう働きかけて実現（課題解決）していったかを、具体的に表したのを見た方がよいのではないかと考えました。「横のつながり」を意識しながら、自らの活動全般を深化・発展させられるのではないかな、経験の浅い人には同様の課題に対してどう行動すべきかの「しるべ」になるのでは、との期待を込めて、プロセス表の作成に至りました。

課題解決のプロセス（経過）の「共有化」について議論し、具体的内容について明らかにしていくことで、誰もが同じスタンス（観点）で課題解決に向けて、実践するための方策の策定に取りかかりやすいかたちとは？

そのような事例を整理し、共有化できればと考えたのがこの「プロセス表」を作成する際の発端でした。

領域的視点に立った実践を分かりやすく、そして継承していくために、領域的視点からの組み立て、等々を全て網羅することまではかなわなくとも、その端緒となるかたちを考える試みは、これからも必要となると思います。そして、私たちが立ち返るところは、「生活の場としての学校」に他なりません。

1.	今までの（現在まで）財政財務活動を実践するにあたり、大事（重視）してきた事項について、項目で結構ですので、記述してください。（例）予算要望活動の際に意見集約の方法について工夫する。	2. 現在（現在校）で重点（課題）として取り上げている（考えている）事項はどのようなことですか。また、その理由についてお書きください。（例）校内予算の配分について（再配分等）
B中	①公費で購入できるものではなく公費扱いにして、個人負担(保護者・教職員)を少なくするよう努める。(調理実習の調味料や粉もの等)②『最小の予算で最大の効果を』を念頭に商品の吟味する。③普段から、不足している物や不便していることがないか尋ねるようにして、メモをしておく。④要望集約時の途中経過やヒアリングの様子を会議等で知らせる。(ある程度納得の上で決める)⑤商品の故障や設備の不具合・破損等があれば、現物確認や現場検証して写真を撮っておく。業者が修理等に来る時は立ち会うようにする	①現在実施していない備品点検(照合)を行うために、備品台帳や点検用の一覧を整備しなければならない。②安全点検が組織的及び定期的に行われていないので、分掌で協力して推し進めていくこと。(事務部・保健体育部)
C小	・学期毎に支出状況を知らせる ・予算要望活動時に集約内容の見直し（毎年少しずつ変更）	③保護者負担から公費負担へ変えられないか・学級活動費の内容の検討（半紙は個人負担であるが、書き初め用紙を昨年度から ④予算要望時の意見を多くもたらすには・学期毎に教室・準備室等の整理を行うてもらい、現在の状況（不足している物の把握等）を知り、予算要望へ・毎月の安全点検で出てきた事項を参考にする（今年度、黒板について出てきた）
F小	・予算要望の備品要望に関わって、前年度の要望とその結果（購入結果）を教職員の前予算未購入のものを再度検討し優先的に要望するが、当該の年度に要望する物品とを調整し資料を作成。	・校内予算の再配分の時点で、「保護者負担軽減」のための学級配分をする。 ・備品関係では児童の机・椅子の順次更新。（机については天板取替え→修繕費対応）
I中	・要望活動の時期だけではなく年間を通して要望活動を意識する。 ・要望については、教員だけでなく多くの人の意見を吸い上げられるようにしていく。 ・教材消耗品等について個人持ち出しをしよう人とそうでない人の差が大きいの。なるべく個人持ち出しをさせないようにする。（啓蒙活動 買えます！と伝える）	・意見が偏りがちである。多くの人が意見を出してくれるように、要望の集約方法についての改善や、情報提供に力を入れていきたい。 ・生徒の意見がたくさん出てきて、それを反映するシステム作りの構築（今年度はアンケートの回収率が非常に悪かったため。）
M中	「財政財務」は、学校教育活動全般にわたって大きな関連性があると認識しているため、自分なりに積極的の実態把握や情報収集に努めている。そのため、日頃から職員全体に多くの情報を提供してもらおうよう周知している。こちら側としても、その情報に対応したアクションを起こすようになっている。	・「学級配分予算の再配分方法」について、前年度実績や予算要望、さらには学年・教科・分掌・課外活動等からの現状を的確に把握しながら設定した（理由については別紙参照）。 ・新年度体制に向けた（とくに）学校事務領域の構築作業。

3.	今後、財政財務活動の実践を進めるにあたってどのような展開を考えていますか。また、その理由についてお書きください。 (例)子どもアンケート等に取り組みたい。	4.	その他(財政財務活動)について、日常的に考えていること、疑問に思っていることについてあればお書きください。内容は問いません。)
B 中	①記録に残したり、写真を撮ること。改修から5年目とはいえ、雨漏りや部品の腐損(不具合)が生じてきているから。②備品台帳の作成→点検用の一覧表作成→備品の照合(理由は上記①の①)		公費と私費の区分で迷っているものがあります。(特別支援学級の先生の武道着、部活動ではないが中体連に参加する陸上用スパイクシューズ)
C 小	○大きな理由は 保護者向け事務日より(ちょっと大きくてました)学校予算についての紹介や、アンケートを実施できれば・・・ まずは、子どもへ実践してからですが。		校内再配分をしてはいますが、各担当に配分した場合に、それぞれ項目毎に出納簿、支出簿などを付けてもらっているのでしょうか。私は行っておりませんが、どなたが行っていらっしゃいましたら教えて下さい。
F 小	・予算要望に児童の意見が反映できるよう児童会等を活用して今後予算要望書を作成したい。 ・現在、予算要望書提出後の「ヒアリング」が実施されないので、ヒアリング実施に向け教育委員会へ働きかけを進めたい。		・校内消耗品予算がPC関係印刷費の増加のためひどく圧迫されている。
I 中	・子どもアンケートについては、方法を変えてみたい。目安箱方式等。 ・教職員については、年に年回が要望を集約してみよう。		・意見の偏り(要望を非常にたくさんあげる人、全く関心を持たない人)はなんとかならないものでしょうかね。
M 中	校内体制として、多少でも「財政財務活動」に関心をもってもらわなければならない。そのことが私たち学校事務職員の職務を理解してもらおう契機となると考えられている。		各校配分予算の再配分はどのように取り決めながら実践していますか？

# 学 校 ・ 地 域

	方法・手段	目的・ねらい
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50px; margin: 0 auto;">現 状 の 把 握</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予算要望とりまとめ時               <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員への希望調査</li> <li>・児童への生活環境調査</li> </ul> </li> <li>○備品台帳、整備保管状況を年度末に職員で整理保管廃棄を行っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員から予算要望に関わって、要望をとりまとめ全体のものとしてつくる。</li> <li>・年度末一般、教材備品の整理作業を職員全体で年度末に行う。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50px; margin: 0 auto;">課 題 の 発 見</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末だけの整理では状況が不明 3月では次年度への要望へ間に合わない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要望がなかなか出てこない。 ……集約時期が行事と重なるため？</li> <li>・要望時(9月、10月)だけとしない</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50px; margin: 0 auto;">解 決 の 手 段 設 定</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検を日を行う</li> <li>・提案の時期を早めに設定</li> <li>・日常から設備・備品について記録しておく (緊急を要するものはすぐに対応)</li> <li>・町教研での交流 各校の状況を知り参考とする</li> <li>・備品整理に関わって、各担当者と相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しでも多くの意見を集約できるように</li> <li>・町内の学校と交流することで、違う課題が見つかる</li> <li>・備品の整理を全職員で行うことで、整理し所在の確認ができる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50px; margin: 0 auto;">実 践</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期末の職員会議で提案 2学期アンケート実施</li> <li>・隔月で安全点検実施</li> <li>・子どもアンケート実施</li> <li>・学期末に行う(年3回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備品の整理を全職員で行うことで、整理し所在の確認ができる。不足部分の補充</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50px; margin: 0 auto;">成 果 ・ 課 題</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1次集約、2次集約と段階を設けることで少し余裕をもつ。</li> <li>・安全点検で出てきたものも、要望事項へ</li> <li>・町教研での交流 各校の状況を知り、参考にできた 共通事項としてはまとめていないが各学校の要望の中に入れる</li> <li>・年3回を目標としたが、2、3学期未実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の学校と交流することで、違う課題が見つかる</li> <li>・1学期末に行い、異動してきた人も確認できると考えたが実施は日程が合わず行えていない。</li> </ul>

# 学 校 ・ 地 域

	方法・手段	目的・ねらい
現状の把握	<p>*「財政・財務活動」が果たして学校全体の取り組みとして機能しているのだろうか？【疑問】</p> <p>→単なる「配分予算の執行」と「予算要望活動」で終始してはいないだろうか……？</p> <p>→子どもや教職員が「事務職員任せ」にしていないだろうか……？</p>	<p>・日常より、学校全体としての「財政・財務活動」自体が教育活動からほど遠いものではないかと感じている。</p> <p>・「事務職員はお金を扱うだけの職員」という認識から少しでも脱却したい。(事務職員も教員と同様、教育活動にかかわっている職員であるというポジションにしていかなければならない)</p>
課題の発見	<p>*「事務職員任せ」「他人任せ」「前年度踏襲が横行し、活動自体の停滞を招いているのではないか。</p> <p>→このスタイルは何も考えることなく「楽ちん」!</p>	<p>・「情報」の提供不足、日常の多忙化、そもそも興味・関心がない……。</p>
解決の手段設定	<p>*「学校事務運営計画」にしっかりと明記する。学校運営全体における位置づけを明確化する。</p> <p>*「財政・財務活動」が年間をととした主体的・創造的な活動ととらえサイクル的に展開していく。</p>	<p>・私たちの中心的な職務内容をきちんと目に見えるようなものにしていくことで、学校事務領域が「教育活動」としてのとりくみであることを示す。</p>
実践		
成果・課題		



# 学 校

	方法・手段	目的・ねらい
<p>き っ か け</p>	<p><b>4月の授業参観日に、保護者から「教材費を口座振替にしてほしい」との要望の声があがる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに現金を持参させるのは不安。</li> <li>・給食費・PTA会費は口座引き落とし、修学旅行は口座振替なのに・・・</li> <li>・小学校の教材費は数年前から口座引き落としになっている。</li> </ul>	
<p>現 状 の 把 握</p>	<p>・4月(前期分)と10月(後期分)に現金で徴収 ・4年前から、教務部が教科・テスト等の教材の取りまとめ、納入の文書作成し、事務部が徴収・口座入金・業者への支払業務を分担することになった。 ・保護者に現金を持参させる不安、徴収担当者には繁忙期に二週間ほど毎日現金を数えて、金融機関に入金する手間がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○黒松内小に教材費納入方法の確認</li> <li>○金融機関に新たな口座振替が可能かどうか確認</li> <li>○町教委勤務の保護者に意見を聞く。</li> <li>○金融機関に口座振替までの手順を確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 多くの生徒が卒業した小学校の状況を確認して、参考にする。</li> <li>◇ 現実的に金融機関で実施できるか、何らかの手続きが必要か？</li> </ul>
<p>解 決 の 手 段 設 定</p>	<p>既存の口座を使用できる。 給食費と同様に、振替日の一月前に名簿と振替金額をデータで提出する。</p> <p>保護者への周知徹底や名簿作成まで時間が必要</p>	<p>振替月はいつにするか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行費は4月末、PTA会費は5月末(給食費と合算)</li> <li>・小学校の教材費は5月末</li> </ul> <p>保護者の経済的負担、名簿作成や金額の確定を考えて、6月末が妥当</p>
<p>実 践</p>	<p><b>新年度からの口座振替開始を決定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教務部や管理職に確認</li> <li>○12月のPTA役員会で口座振替について説明して意見を聞く</li> <li>○3月末学校通信に口座振替の旨を記載してもらう。</li> </ul> <p>&lt;新年度&gt;教務部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■教材の取りまとめを行う</li> <li>■納入方法の変更に係る文書を作成・配布</li> <li>■授業参観日の全体懇談時に、口座振替について口頭説明</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○振替額と氏名等の名簿を作成、金融機関に提出。</li> <li>■振替月の初めに口座振替と振替額について再度文書配布</li> </ul>	<p># 振替直前にあらためて金額や振替額を周知してほしい。</p> <p>残高不足で振替できなかったら？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・翌月現金で納入？再度振替？</li> </ul> <p>未納者対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・督促の方法・・・</li> </ul>
	<p><b>6月末、口座振替</b></p>	